2月分 工事成績優秀工事 薩摩川内市

薩摩川内市の17年度2月検査分の優秀工事（75点以上）は、山下㈱建設（山下資起社長）施工の桑之浦港施設内整備工事の76.5点と㈱宮内建設（神山幸紀社長）施工の合併浄化槽設置工事（江石地区）17－1工区の76点の2社だった。76点台は工事成績評点の中ではこれまでの最高点。2人の現場代理人に話を聞いた。

桑之浦港施設内整備 76・5点で山下㈱建設

山下 光介 現場代理人

入社して3年目。先輩方の工事の補助をしながら写真の撮り方から書類作成、電話の対応の仕方など一から学ばせていただきました。現場代理人を任されたのは今回で2回目です。これまでに港湾工事の経験しかなく、何もかもが手さぐりの状態で、川元信治所長はじめ先輩方の指導をもらいながら、少しでも現場をスムーズに進めることで頭はいっぱいでした。

施工面で一番注意したのは品質管理でした。川元所長からは特記仕様書に記載されない場合でも、施工管理基準に準拠してするようにと指示がありました。その指示で乳剤散布量の試験と路床の平板載荷試験を実施することにしました。また品質目標を施工会議で定め、例えば路盤の厚さの規格値㊀30㎜以内（㊀15㎜以内）を目標に管理することに決定しました。

舗装面は幅約27m、延長124m。路床や路盤、表層の基準高の管理については、管理基準では3測点でよいのですが、幅が広いのであえて5点管理することにしました。しかし、管理に追われて現場作業が中断しないように、CADで施工図を作成し、担当者とメールでやりとりしました。

どんな工事でもそうですが、周りの人たちの協力がないとしっかりとした管理は、絶対にできないと思います。今回の成績は、工事事務所全体で取れた点数だと思います。

私にとっては、とてもよい経験となり、自信となりました。これからもこのことを励みにいろいろなことに頑張っていきたいと思います。

合併浄化槽設置（江石地区）17の1 76点で宮内建設

小川 達也 現場代理人

入社して3年目、現場代理人は初めてです。会社には父も一緒に働いています。ちょうど父は県発注の農業大学校現場で建築工事の現場管理を行っていました。もらった成績は80点。やはりかなわなかったとがっかりしました。

ところが、薩摩川内市の検査の厳しさや工事成績評定の合格点（標準点）が65点であること。75点以上はこれまでに5人しかいないこと。さらに76点台は初めてであること等を後で知って、どんなに高得点であるかが分かりました。いまは父に点数で負けたことよりも、点数の重みに驚いています。

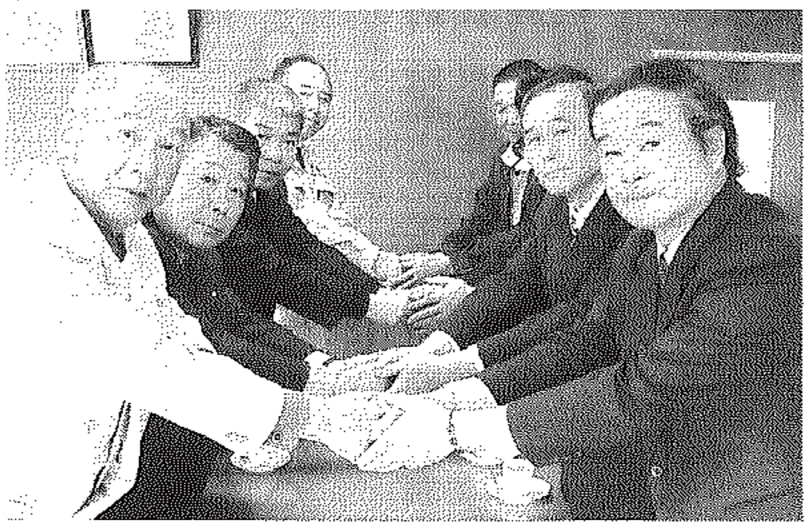
着手前に住民宅を訪問しました。目的は工事への理解と今後の作業内容の説明ですが、現場代理人としての関心から作業場所の地質の状況を知りたい、これも重要な目的でした。住民から「海岸線が近いので1m掘れば海水が出る」、という情報をもらいました。施工計画を作成する段階でこれは大変役に立ちました。

干満時の海水流出入による土砂流出対策は施工計画の上で重要なポイントになったからです。そこで、浄化槽設置時には槽の周囲を土嚢で取り囲み土砂流出を防止することにしました。

最後に、神山社長はじめ社内の先輩はもちろんですが、住民の協力、何度も現場に出向いていただいた上甑支所の工事担当者。そして一緒に作業した2人の仲間、そういう皆さんに支えられていただいた評価だと思います。

県建設業協会、支部所属変更調印式

日置支部から会員10社 加世田支部へ編入



調印後、固く握手を交わす両支部代表＝南さつま市の南薩建設業会館で

県建設業協会加世田支部（上東信義支部長）と同日置支部（西郷進一支部長）は14日、南さつま市の南薩建設業会館で支部所属変更調印式を行った。

今回の支部所属変更は、17年11月に南さつま市（加世田市、坊津町、笠沙町、大浦町、金峰町）が誕生したことにより、日置支部に所属し旧金峰町に籍を置く10社を、18年4月1日より県伊集院土木事務所の所轄区域から県加世田土木事務所の所轄区域に変更するために行われるもの。これまで双方執行部による協議を重ねた末に合意に達したことから、このたび10社の加世田支部への所属変更が決まった。

調印式には、加世田支部から上東支部長ら役員4人、日置支部からは西郷支部長をはじめ三役ほか利副支部長、さらに編入する旧金峰地区のメンバー10社を代表して、小寺登氏（㈱小寺組社長）、前田健司氏（㈱前田建設社長）ら4人が出席。最初に覚書を交わした後、両支部長がそれぞれ調印を行い、互いに固く握手を交わし合った。

調印後、上東支部長が「加世田支部に来て良かったと思っていただけるよう、互いに研さんし合いながら地域の発展のために盛り上げていってもらいたい」と歓迎した。それを受け、西郷支部長が「金峰地区10社の編入を快諾いただいたことに、厚く感謝申し上げたい。今まで以上の情報の共有化に併せ、両支部間の結束強化をお願いしたい」と感謝の意を述べた。

支部所属変更を行う会員は次の通り。

有元建設㈱ 内野建設㈲ ㈲検校工務店 ㈱小寺組 末廣建設㈲ ㈲原薗建設 ㈲東谷建設㈱ 堀之内建設㈱ ㈱前田建設㈱ ㈱丸山建設産業

新種子島空港開港 真のスタートに

中村 聡志課長

さきごろ種子島空港の就航が決まったことは、地域間競争下で課題なこのことを通じて、ジェット化を実現していかなければならないのである。

もちろん種子島には美しいビーチや全国的にも有数なサーフィンスポットがある。他県の住民にとって念願のジェット化に対応した新種子島空港が開港。ジェット機の就航が可能となることで、より多くの旅客をより早く、より遠くの地域から種子島に呼んでくることが可能となるが、このことはどのような効果をもたらすのであろうか。

一つには、観光客誘致の一つの武器となることがあろう。機材の大型化は大都市圏からの旅行商品をより組み易くし、新規就航の可能性も広がるであろう。

また、種子島の特産品を新鮮なまま大都市圏の市場に供給するというビジネスの可能性も出てこよう。しかし、開港時点でのジェット化は見送られた。そのため、前述の効果はあくまでも可能性の範囲に留まっている。

航空路線のジェット化などは基本的にニーズが期待できることが前提である。つまり、観光客誘致などをこれから積極的に行ってニーズを掘り起こすことにはないロケットの発射基地もある。また、近隣には世界自然遺産の屋久島がある。そう考えると種子島の地域資源は豊かだといえる。その地域資源をどう大都市圏の旅行エージェントや消費者に認知させ、他の観光地と差別化するかが課題である。屋久島の全国的な知名度を種子島の集客と結びつけるとか、種子島で開催される全日本のサーフィン選手権大会と誘客を結びつけるといったような、全国にアピールできる要素と種子島を結びつけるような取り組みが一層必要とされるであろう。

その意味で、念願の新空港完成はゴールというよりも、種子島の一層の活性化に向けたスタートラインなのである。

（日本政策投資銀行南九州支店・企画調査課）

県不動産鑑定士会

来月4日、無料相談会

県不動産鑑定士会は4月4日午前10時から午後4時まで、鹿児島市中小企業勤労者福祉サービスセンター（鹿児島中央駅前キャンセ7階）で「不動産の無料相談会」を開く。

問い合わせは、県不動産鑑定士会（☎099・206・4849）まで。

鹿児島高等技術専門校

来月7日、入校式

鹿児島高等技術専門校（鮫島純男校長）は4月7日午前10時から、鹿児島市の同校で18年度入校式を開く。

建設業の詳しい情報は…
無料体験実施中
http://www.kc-news.co.jp
業者格付・県・市町村予算・発注予定工事 等々 情報は盛りだくさん！
お問い合わせ：099-222-6123